

世界史 A 学習指導案

平成25年11月 1日（木曜日）第4校時 1年〇〇科教室 指導者

1 単元名 核兵器について多面的・多角的に考察し、平和について考えを深める

2 考察

(1) 教材観

戦後60年を過ぎ、戦争の被害や悲惨さを直接経験した世代が少なくなり、戦争の記憶は薄れつつある。また、近年、中国との尖閣諸島をめぐる情勢や北朝鮮の核実験やミサイル発射の問題など、日本を取り巻く安全保障環境は大きく変化している。これらを背景として、憲法9条の改正や集団的自衛権の解釈見直しなど、かつては議論の対象にさえならなかったことが、現実の政策課題として取り上げられるようになってきている。このような状況下にあつて、核兵器についても、一言「反対」と唱えて事足りりとするのではなく、一人一人が自分の考えをもつべき時期が来ていると考える。

平成25年4月、日本政府は、核不拡散条約の再検討に関する準備委員会で、核兵器の非人道性を訴えた共同声明に署名しなかった。「いかなる状況でも核兵器が二度と使われないこと」という表現が、アメリカの「核の傘」に頼る日本の安全保障政策と一致しないと判断したからである。原爆投下の歴史をもつ長崎市や広島市の首長はこの決定を強く批難し、その後、政府は国連総会で同様の共同声明に署名する方針に転じた。しかし、「核の傘」に頼る安全保障政策を変更したわけではない。

ここから分かるように、唯一の戦争被爆国という歴史をもつ日本国内においても、核兵器に対する考え方は一様ではない。核兵器の廃絶という目標を共有する立場であっても、方法論については意見の相違がある。例えば、唯一の戦争被爆国としての歴史を重視する観点から、即時廃絶を目指す考え方や、現実的に日本の安全保障を確保する観点から、段階的に削減しながら将来的な廃絶を目指す考え方が存在している。

また、核兵器に対する考え方は、国によって大きく異なる。日本において、核兵器の廃絶は国是であるが、この考え方を全ての国が支持しているわけではない。イランや北朝鮮など、新たに核兵器の保有を目指す国も存在している。核兵器の廃絶によって平和を維持しようとする国があり、一方で核兵器の保有によってそれを確保しようとする国がある。どちらの国も同じく平和を希求しながらも、現実の政策としては決定的な違いがあり、両者の考え方の溝は容易には埋まり難い。以上のように、核兵器は、国の内外を問わず、正解のない論争的なテーマである。

新学習指導要領では、歴史的思考力を歴史の知識を活用して考える力と捉え、その育成を大きな目標としている。そして、その力を育成する授業の例として、現代社会が直面する課題を多面的・多角的に考察させ、解決のための視点や方策を考えさせることを挙げている。

本単元は、この授業例を具体化したものである。そして、政治的中立性に配慮しながら、核兵器という正解のない課題について、歴史的視点から多面的・多角的に考察し、自分の考えをもち、それを学び合いによって深める。この学習は、学習指導要領が目標とする歴史的思考力の育成に資するものであり、さらには社会科の最終的な目標である「国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質」の育成に資するものであると考える。

(2) 生徒の実態と指導方針

1年〇〇科は、比較的学力の高い生徒が多く、定期テストの平均点は概して高い。また、資格取得に熱心であり、授業態度も非常に真面目である。発問したときに誰かを指名しなくても自然に応答する雰囲気があり、意欲的である。

しかし、生徒の実態を把握するために実施した、世界史に関するアンケートの結果によれば、「勉強が好きだ」、「成績や入学試験に関係なくても大切だ」という質問に、「どちらかと言えばそう思わない」、「そう思わない」と回答した生徒が、それぞれ3割程度であった。これらの学習の動機付け

ができていない生徒に対しては、特に単元の導入時に、ICTを活用した導入の工夫を行い、学習内容に対する興味・関心を高められるようにする。

また、「先生の講義を受ける学習」について、「どちらかと言えば得意でない」、「得意でない」と回答した生徒が、5割程度であった。一方的に講義を受けることが苦手な生徒に対しては、発問と応答による双方向の授業展開を行い、授業の緊張感を持続できるようにする。

さらに、「テーマを設けて討論し合う（話し合う）学習」について、「どちらかと言えば好きではない」、「好きではない」と回答した生徒、また、「どちらかと言えば得意ではない」、「得意ではない」と回答した生徒が、それぞれ5割程度であった。自分の考えを表現することへの抵抗感や苦手意識を和らげるため、本単元における学び合いでは、紙上討論の形式で、匿名での意見交換を基本とすることで考えを深められるようにする。

3 研究とのかかわり

本研究では、歴史的思考力の育成に向け、「高校世界史Aにおいて歴史的思考力を高める指導の工夫」を研究主題とし、「現代社会の課題を現代史の学習を通して多面的・多角的に考察し、自分の考えを表現し学び合う活動を通して」を副主題として研究を進めている。

本単元では、研究の手だてに基づいて、核兵器について、歴史的視点から多面的・多角的に考察し、それを基にして自分の考えをもち、学び合いによりそれを深める。具体的には、まず、核兵器をなくすべき理由と核兵器をなくすことが難しい理由を学習し、考える基礎となる知識を習得する。次に、テーマに関する意見文に対する賛否を、理由を明確にして表現する。さらに、学び合いにより、自分と異なる立場が成り立つことや、それを支える理由に気づき、見直すことで自分の考えを深める。

考える基礎となる知識が習得されたか、手順や条件に従って考えることが有効に働いたか、学び合いが有効に働いたかを検証する。

4 単元の目標

- ①核兵器をなくすべき理由と核兵器をなくすことが難しい理由について理解することができる。
- ②核兵器による抑止力の是非について、理由を明確にして自分の考えを表現することができる。
- ③核兵器について、自分の考えを深めることができる。

5 指導計画（全4時間予定）

評価規準	関心・意欲・態度	現代社会の課題である核兵器について、関心と課題意識を高め、意欲的に追究しようとしている。		
	思考・判断・表現	核兵器について、歴史的経緯を踏まえて多面的・多角的に考察し、自分の考えや理由を明確にして表現している。		
	資料活用・技能	核兵器に関する映像や画像、文章などの諸資料から情報を読み取り、文章に書いたり言葉で表現したりしている。		
	知識・理解	核兵器をなくすべき理由と核兵器をなくすことが難しい理由を理解し、その知識を身に付けている。		
時間	過程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動
		活用させたい知識等	思考力・表現力等	
第1時	課題把握①	<ul style="list-style-type: none"> ・核兵器による、直接的な被害と間接的な被害 ・核の拡散により、核攻撃の危険性が高まっていること ・核の拡散のうち、テロリズムが最も心配されており、日本もテロリズムの 	<ul style="list-style-type: none"> ・核兵器の被害について考える力 ・プラハ演説の資料から、核攻撃の危険性が高まっている原因を考える力 	<ul style="list-style-type: none"> ・核兵器の被害についての画像や映像を見て、現在の核兵器の被害について想像する。 ・プラハ演説の資料から、核攻撃の危険性が高まっている原因を読み取る。 ・学習した知識、理解を確

		標的となる可能性があること		認する。
第2時	課題把握②	<ul style="list-style-type: none"> 核兵器を保有する主な国々 保有国が核兵器を多くつくった理由が、核兵器を用いた安全保障であること（核抑止） 日本が、アメリカの核の傘に頼る安全保障政策をとっていること 日本を取り巻く安全保障環境が変化していること ものの見方は立場によって異なること 	<ul style="list-style-type: none"> 核兵器の保有国について既習事項を活用する力 保有国が核兵器を多くつくった理由を考える力 核の傘がなくなった場合の日本政府が懸念していることを考える力 異なる二つの立場から考える力 	<ul style="list-style-type: none"> 核兵器の保有国について記述する。 保有国が核兵器を多くつくった理由を考える。 冷戦期に日本が行った安全保障を考える。 尖閣諸島をめぐる日中関係と日中友好を訴える人々の映像を見て、日本の安全保障について考える。
第3時	課題追究	<ul style="list-style-type: none"> 第1時、第2時に学習した、核兵器をなくすべき理由と、核兵器をなくすることが難しい理由 	<ul style="list-style-type: none"> 核兵器についての意見文から情報を読み取る力 意見文に対する賛否を考える力 自分の考えを支える理由を考える力 自分の考えを表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> 核兵器に対する自分の考えを、理由を明確にして書く。 学び合いにより考えを深める。
第4時	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 第1時、第2時に学習した、核兵器をなくすべき理由と、核兵器をなくすることが難しい理由 自分と反対の立場で友達が記述した理由 指名された発表者の考えとその理由 	<ul style="list-style-type: none"> 友達が自分と反対の立場で記述した理由を基に、自分の考えを見直す力 指名された発表者の発表を聞き、自分の考えと比較して違いに気付く力 	<ul style="list-style-type: none"> 友達が自分と反対の立場で記述した理由を基に、自分の考えを見直す。 指名された生徒は、自分の考えを発表する。その他の生徒は、発表者と自分の考えを比較する。

6 本時の展開（1 / 4）

- (1) **ねらい** 核兵器をなくすべき理由を知る。
- (2) **準備** ワークシート、プロジェクタ、マグネットスクリーン、iPad、画像・映像資料
- (3) **展開**

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
【本時の目標】 核兵器をなくすべき理由を知る		
1 1945～1998年の間に使われた核を視覚化した映像（“1945-1998” by Isao Hashimoto）を見て、本時の学習内容を予想する。 本時の目標を確認する。	導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ◎単元の学習全体への興味・関心を喚起する。 ◎核兵器を否定する考え方を知ることが本時の目標であり、具体的には、①核兵器の被害、②核攻撃の危険性の高まりについて学習することを説明する。
2 「もし核兵器が使用されたら、どんな被害が出るだろうか」という発問に答える。 ・爆風で人や建物に被害が出るだろう。 ・放射線の影響で健康被害が出るだろう。	展開 35分	<ul style="list-style-type: none"> ◎生徒の意見を板書して整理する。核兵器による被害と、その原因についてまとめ、放射線が出るのが核兵器の特徴であり、非人道的兵器と呼ばれていることに気付かせる。
3 核兵器が使用された時の被害についての画像や映像を見る。 ・放射線による健康被害は深刻だな。 ・放射線は染色体を傷つけ、それが原因で病気になったりするのだな。		<ul style="list-style-type: none"> ◎現在の広島に被爆者について扱うことで、核兵器が長期間悪影響をもたらす非人道的兵器であることに気付かせる。 ◎映像の印象が強いため、生徒は感情を表現することに終始すると考えられる。「感じたこと」と「分かったこと」を分けて記述させることにより、放射線が人体を蝕むメカニズムについても気付かせる。

<p>4 2009年のオバマ大統領のプラハ演説の映像を見て、「核攻撃の危険性が高まっている理由」を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オバマ大統領は、核兵器の拡散を警戒しているのだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○核実験の実施と核保有国の増加、核物質の取引や製造技術の拡散、核兵器を用いたテロリズムについて気付かせ、それを「核の拡散」というキーワードでまとめる。 ○映像から理由を読み取れなかった生徒のために、演説の原稿を読ませる。文章を読むことが苦手な生徒のために、演説の原稿を読みやすい文章にした上で、読みにくい漢字にふりがなをふり、さらに注目すべき部分にアンダーラインを引いておく。
<p>5 2001年の同時多発テロ事件についての映像を見る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・突然事件が起こって怖かっただろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○映像を見せ、当時の人々の気持ちを想像させる。この経験が、オバマ大統領の「核なき世界」の構想へつながっていったことを補足説明する。
<p>6 「日本人がテロリズムの標的になることはあるだろうか」という発問に答える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本人は外国からうらまれているから、大丈夫ではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2003年、イラク戦争に自衛隊を派遣した日本に対して、報復する予告があったことなどを紹介し、日本がテロの対象となる可能性は否定できないことを説明する。
<p><表れてほしい具体的な姿> 核兵器が戦争後も長期間悪影響をもたらす非人道的兵器であることを理解している。また、放射線による健康被害の実態と、放射線が人体を蝕むメカニズムを理解している。さらに、核攻撃の危険性が高まっている理由が、核の拡散にあることを理解している。</p>	<p>◇核兵器をなくすべき理由を知ることができる。 (小テスト、ワークシートのまとめ【知識・理解】)</p>
<p>7 学習した内容を振り返り、基礎的な知識・理解を確認する小テスト(正誤問題)に解答する。また、「学習内容のうち最も重要だと思うこと・そのことについて考えたこと」を記述する。</p>	<p>まとめ 10分</p> <ul style="list-style-type: none"> ○小テストは、生徒の実態に合わせた正誤問題とし、授業のねらいが達成できたかを検証できるものとする。 ○「学習内容のうち最も重要だと思うこと・そのことについて考えたこと」は、記述の例を参考として記載し、書くことが苦手な生徒を支援する。

7 板書計画

<p>核兵器をなくすべき理由を知る</p>		
<p>1 核兵器の被害</p> <p>壊れるもの 人 建物 環境 爆発、放射線による 戦争後も長い間悪影響 ↓ ◎非人道的兵器</p>	<p>【マグネットスクリーン】 ※プロジェクトで各種画像・映像を投影する 導入 “1945-1998” by Isao Hashimoto</p> <p>1 核兵器の被害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の広島に被爆者の映像 <p>2 核攻撃の危険の高まり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オバマ大統領によるプラハ演説の映像と、その原稿の画像 ・同時多発テロの映像 	<p>2 核攻撃の危険性の高まり</p> <p>◎核の拡散 核開発(イラン、北朝鮮) <u>核を用いたテロリズム</u> ↑ 2001.9.11同時多発テロ事件</p> <p>※時間に余裕があれば、事故で核兵器が誤って爆発する可能性について補足説明をする。</p>

6 本時の展開 (2/4)

- (1) ねらい 核兵器をなくすことが難しい理由を知る。
- (2) 準備 ワークシート、プロジェクタ、マグネットスクリーン、iPad、画像・映像資料
- (3) 展開

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
[本時の目標] 核兵器をなくすことが難しい理由を知る		
1 前時の復習をした後に、本時の目標を確認する。	導入 5分	○核兵器をなくすことが難しい理由を知ることが本時の目標であり、具体的には、①核兵器の(肯定的な)効果、②核がなくなると起こる可能性があること、について学習することを説明する。
<p>2 「核兵器の保有国と保有数」の表で、空欄になっている上位2カ国を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ、ロシアだろうな。 <p>3 必要以上に多くの核兵器を作った目的について、自分の考えをワークシートに書き、その後、教師の説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を攻撃する目的だろう。 ・核兵器をもつことで相手をおどし、攻撃するのをためらわせる目的だろう。 ・抑止力が目的だろう。 <p>4 周囲に核兵器を持つ国が増えていった時代に、日本がどのような安全保障政策を行ったのか、自分の考えをワークシートに書き、その後、教師の説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日米安全保障条約で守ってもらった。 ・アメリカと条約を結び、軍事力を提供してもらった。 <p>5 現在の日本と周辺諸国との関係を考え、そのうち最も関係悪化が心配されている国を想像する。また、なぜ対立しているのかを考え、教師の説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国だな。 ・中国が尖閣諸島は自分のものだと言っているのだな。 ・北朝鮮はどうなのかな。 <p>6 日本が核の傘に頼らないと決断したとして、もし周囲の国と対立した場合に、話し合いで解決できるかどうかを、二つの映像を見てそれぞれ考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もし核保有国の中国と対立したら、資源を奪われてしまうかもしれない。 ・資源をめぐる対立したとしても、話し合いによって解決できるから、心配するような事態にはならない。 	展開 35分	<p>◎簡単な発問に答えさせて小さな成功体験を経験させ、授業に取り組む姿勢を整えさせる。</p> <p>○アメリカとロシアであることを確認するが、どちらが上であるかは問題でなく、全人類を抹殺できる量の核兵器を保有していることを数字から読み取らせる。他の国については深入りしない。</p> <p>○核兵器が戦争の抑止力と考えられており、逆説的ではあるが、核兵器を持つことで平和が保たれることもあることに気付かせる。中学校の教科書では、核の抑止力について取り上げるものと取り上げないものがある。したがって、生徒もこの事項について学習した者とそうでない者が混在していると考えられる。ただ、既習の生徒も、時間の経過とともに記憶があいまいになっていることを考え、初めて学習する生徒に合わせた指導を行う。</p> <p>◎「相手の国を滅ぼすのにこれほど多くの核兵器は必要ない。では、必要以上に多くの核兵器を作った目的はなんだろうか」と補足する。</p> <p>○日本がアメリカに守られていることは漠然と理解しているが、日本への核攻撃に対してアメリカが核攻撃で報復する、いわゆる「核の傘」に保護されていることは認識していないと考えられる。日米安全保障条約に基づき、核を含むアメリカの抑止力の提供を受けるといふ安全保障政策をとった事実を押えさせる。</p> <p>◎考えさせる前に、極東アジアの白地図で、日本の周りの国々や、核兵器の保有状況について押えさせる。白地図の国名に赤で丸を付けさせる。核の傘の説明の際に、地図上に傘の絵を書き、イメージをもたせる。</p> <p>○核兵器がなくなった時に起こる可能性があることについて考える時に、漠然とではなく、具体的な二国間関係を基に考えるさせる。生徒に問題意識をもたせることが目的である。ロシア、北朝鮮、韓国との関係も無重要ではあるが、すべての国について個別に検討することは時間の制約があり難しく、また本単元の構想外である。年間指導計画の中で適切に追究させる。</p> <p>○中国はなぜ小さな島である尖閣諸島の領有権を主張するのか、その理由について掘り下げる。島があることで排他的経済水域が広がり、漁業や石油などの資源が確保できることを説明する。</p> <p>○日中関係については、外務省など国が発行した資料に依拠して事実と異なる説明をしないように十分に注意する。</p> <p>○一つ目の映像は、尖閣諸島の国有化を契機とした反日デモを中心に扱っており、デモに参加する中国人の様子や、デモで店を破壊された日本人の様子が描かれ、日中の対立を印象付ける映像である。二つ目の映像は、日本語を学ぶ中国人が日中の友好を呼びかける姿や、また、中国のサッカーチームを指導する日本人の監督が、中国への無理解を基にイメージで判断することへの危惧を訴えている姿が描かれ、日中の友好を印象付ける映像である。立場の違う二つの視点の映像を見せ</p>

<p style="text-align: center;"><表れてほしい具体的な姿></p> <p>核兵器が戦争の抑止力として機能しており、日本がアメリカの核の傘に依存する安全保障政策をとっていることを理解している。また、核の傘を離脱することで起こる可能性のある、日本の安全保障環境の変化について考えている。</p>		<p>ることで、多面的・多角的なものの見方が存在することに気付かせる。</p> <p>○核の傘がなくなった場合にどのような事態が起こるかは、正解のない問題であること、しかし、誰しもが考えなければならない問題であり、自分で情報を集めて考え、判断しなければならないことを伝える。</p> <p style="text-align: center;">◇核兵器をなくすことが難しい理由について、知ることができる。 (小テスト、ワークシートのまとめ【知識・理解】)</p>
<p>7 学習した内容を振り返り、基礎的な知識・理解を確認する小テスト(正誤問題)に解答する。また、「学習内容のうち最も重要だと思うこと・そのことについて考えたこと」を記述する。</p>	<p style="text-align: center;">ま と め 10分</p>	<p>◎小テストは、生徒の実態に合わせた正誤問題とし、授業のねらいが達成できたかを検証できるものとする。</p> <p>◎「学習内容のうち最も重要だと思うこと・そのことについて考えたこと」は、記述の例を参考として記載し、書くことが苦手な生徒を支援する。</p>

6 本時の展開 (3 / 4)

- (1) **ねらい** 核兵器について自分の考えをもつ。
- (2) **準備** ワークシート、プロジェクタ、マグネットスクリーン、iPad、画像・映像資料
- (3) **展開**

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
[本時の目標] 核兵器について自分の考えをもつ		
<p>1 前時の復習をし、次に本時の目標を確認する。</p>	<p style="text-align: center;">導 入 5分</p>	<p>○核兵器について自分の考えをもつことが本時の目標であり、具体的には、意見文について、賛成か、反対か、自分の意見を根拠を明らかにして表現することを説明する。</p>
<p>2 「歴史上唯一の戦争被爆国である日本は、核兵器のない世界を目指して、どんな場合でも核兵器は使ってはならない、今後アメリカの核の傘に頼らない、と国際社会にアピールすべきだ」という内容の意見文を読み、内容を理解する。</p> <p>・核の傘って、なんだったかな。</p> <p>3 今後の学習内容についての説明を聞き、見通しをもつ。</p> <p>4 意見文に賛成か反対か、自分が日本の首相だとして考える。</p> <p>考える前に、前時の2回の内容を編集した映像を見て学習した内容を思い出す。また、ワークシートに書かれた六つのポイントをヒントに考える。</p> <p>必要があれば質問する。</p>	<p style="text-align: center;">展 開 40分</p>	<p>○この意見文は、広島平和宣言と長崎平和宣言の内容を参考に作ったことを説明し、日本国内で核兵器の問題について対立する意見が存在することを指摘する。また、今年度の長崎平和宣言では、アメリカの核の傘に配慮して、核兵器の使用を状況によっては認めるという姿勢を示した日本政府を批判していることを紹介する。</p> <p>◎核の傘については、意味を確認する。</p> <p>○本時は、次のような流れで学習を進めることを説明する。</p> <p>①理由を明らかにして自分の考えをもつ、②自分の考えを書いたワークシートに、友達から反論や質問を書いてもらう。</p> <p>この際に、自分の名前を個人情報保護シールで隠すことと、名前を隠すことで、友達に遠慮無く反論や質問をしてもらうというねらいを伝える。</p> <p>◎匿名でのやりとりになるが、個人を傷つけることは書いてはならないことを伝える。</p> <p>○映像については、前時の2回の授業で扱ったもののうち、象徴的なシーンを編集して見せる。適宜説明を加えながら、学習した内容を思い出させる。</p> <p>○賛成か、反対か、どちらかが絶対的に正しいということはないこと、なぜそう思うのか、理由が大切であることを伝える。考えるときには、前時の2回の学習内容や、自分もっている常識を基にすることを助言する。</p> <p>◎持ち時間を十分に使って考えを深めるように指示する。</p>

<p>(生徒からの疑問)</p> <ul style="list-style-type: none"> 核の傘がなくなると、核兵器で攻撃されてしまうのではないか。 核兵器の危険性を知りながら、実際に使う判断をできる人間はいるのかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>＜表れてほしい具体的な姿＞</p> <p>意見文について賛成か、反対か、自分の立場を理由を三つ以上挙げて表現できる。</p> </div> <p>5 回覧されてきたワークシートの記述を読んで、それに対して反論や質問を5分で書く。この作業を4回繰り返す。</p>	<p>もし早く終わってしまった場合には、教壇にワークシートを持参してチェックを受けるように指示しておく。適宜、不十分な所を指摘して考えを深めさせる。</p> <p>○生徒からの疑問については、事前に予想しておき、事実と反しないように慎重に解答する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◇意見文について賛成か、反対か、自分の立場を根拠を三つ以上挙げて表現できる。また、理由の内容が自分の立場を支えるものになっている。 (ワークシート【思考・判断・表現】)</p> </div> <p>○議論の時にあえて反対の立場で質問して、話し合いを深める役(悪魔の代弁者)があることを紹介し、その役になってもらうことを説明する。反論や質問をする際には、具体例を紹介し、イメージをつかませる。</p> <p>(具体例)</p> <p>【理由】「映像で見たように、日中友好を求める人達もいるから、対立は話し合いによって解決できる」</p> <p>【反論】「日中友好を求める人はいる。ただ、中国の指導者がそれを求めていなければあまり意味がない」</p> <p>【理由】「北朝鮮は核兵器やミサイルの開発を進めているから、核を含めた軍力によるおどしは必要だ」</p> <p>【反論】「北朝鮮の立場から見れば、日本の自衛隊や在日アメリカ軍、核の傘はすごく怖いんじゃないかな。こちらが持っているから相手も持とうとしているだけじゃないか」</p> <p>◎考える作業は疲れるので、集中力が切れてきた様子が見られたら、ワークシートを回覧するのではなく、逆に友達のワークシートがある席に生徒を移動させて気分転換させる。</p>
<p>6 次回の学習について見通しをもつ。</p>	<p>まとめ 5分</p> <p>○次回の授業では、友達の記述を基に自分の考えを改善することが目的であることを説明する。自宅で調べたことを反映させてもよいと説明する。</p>

6 本時の展開 (4 / 4)

- (1) **ねらい** 核兵器についての意見文に対して自分の考えを改善し、表現する。
- (2) **準備** ワークシート、プロジェクタ、マグネットスクリーン、iPad、画像資料
- (3) **展開**

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価)
【本時の目標】 核兵器についての意見文に対して自分の考えを改善し、表現する		
1 本時の目標を確認する。	導入 5分	○核兵器について自分の考えを改善することが本時の目標であり、具体的には、自分の考えを改善する学習活動の後、賛成、反対の立場に分かれて、班別で協議することを説明する。
2 考えを改善するための方法について、教師の説明を聞いた後、相手からの反論や質問を基に自分の考えを改善し、ワークシートに記述する。 ・【核の傘不要論の生徒に対して】 質問 ：核開発を進めている国は使うつもりがあるから開発しているんだ。もし攻	展開 40分	◎どんなものであれ、生徒にとって自分の考えを否定されることはストレスを感じることである。そこで、生徒には、匿名の意見に対する反論なので、個人が攻撃されたわけではないことを説明し、冷静になって相手からの反論を活かしてほしいと伝える。 ○改善の前に、反対、賛成それぞれの立場から一つずつ具体例を紹介し、どのような部分が足りないのか、それをどう改善すればいいのかを説明する。最後に、「争点」

<p>撃されたらどうするの。 →いきなり核兵器で攻撃する国はないんじゃないかな。</p> <p>・【核の傘必要論の生徒に対して】 質問：唯一の戦争被爆国である日本が、きれいごとを言いつつ実は核兵器に頼っている姿勢は矛盾しているし、他の国から信用されないよ。 →いつかはなくなった方がいいと思う。でも、現実的に安全を確保するために必要だという意見は、他の国にも受け入れられるんじゃないかな。</p> <p>3 賛成・反対の立場で分かれて、班別協議を行う。</p> <p>①賛成or反対、同じ立場の他の人が、なぜその立場を選んだのか、三つの「理由」を聞く。</p> <p>②「理由」の中で、自分が思いつかなかったものに、赤でアンダーラインを引く。</p> <p>4 賛成、反対の立場からそれぞれ数人程度、自分の「理由」と、班別協議の結果分かった、「自分が思いつかなかった理由」を発表する。その他の生徒は、発表を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><表れてほしい具体的な姿> 意見文に対する自分の立場や理由について、相手からの反論や質問を基に改善できている。また、班別協議や指名された生徒の発表から、自分が気付かなかった「理由」に気付くことができる。</p> </div>	<p>(争いの的になっている主要点)と「具体性」に気を付けて記述を改善するように指示する。 相手からの批判や反論がどんなものであれ、その対象となっている理由に弱点があるということなので、その部分を特に補強するように指示する。</p> <p>◎持ち時間を十分に使うって考えを深めるように指示する。 もし早く終わってしまった場合には、教壇にワークシートを持参してチェックを受けるように指示しておく。 適宜、不十分な所を指摘して考えを深めさせる。</p> <p>○座席については、事前にワークシートの記述を見て賛成・反対の生徒を把握し、座席表を作っておき、配付する。協議の際には、ワークシートに友達の考えをメモするように指示するが、あまり丁寧に書いていると時間がなくなってしまうので、あくまでメモ程度にとどめ、話合いに力を入れるように指示する。</p> <p>◎協議が早く終わってしまった班には、さらに、改善する前の自分の「理由」と、それに対して「悪魔の代弁者」からどのような反論が出されたのかについて協議させる。(別途ワークシートを配付)</p> <p>○賛成の立場の発表と、反対の立場の発表を交互に一人ずつ行う。</p> <p>○質問については、自分から進んで発言することが望ましいが、そういった生徒は少なく、代表者になっている可能性が高いと考えられる。前もって生徒の意見を把握し、また話合いの最中の生徒の様子を観察し、よい意見をもちながら発言を躊躇している生徒を指名し、発言させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇意見文に対する自分の立場や根拠について、相手からの質問を基に改善できている。 (ワークシート【思考・判断・表現】)</p> </div>
<p>5 教師の講評を聞く。 また、今回の単元全体の学習を振り返る。</p>	<p>まとめ 5分</p> <p>○今回の授業を通して、①考えるための材料として知識が不可欠であり、知識を軽視することなく、興味をもって色々な知識を吸収してほしいこと、②考えを深めるためには、「本当だろうか」「他の可能性はないのか」「具体的か」など、自分で自分に問いかける作業(＝悪魔の代弁者を自分の中に作ること)が必要であること、③環境問題や、少子高齢化、身近なところでは進路選択など、答えの出ない問題が数多くあり、問題意識をもちながら、「全てを知って判断しようとする」姿勢が大切であることを伝える。</p>